

渡邊さんに総務大臣感謝状伝達

4/23

渡邊妙子さん(八中区)に総務大臣感謝状が贈呈されました

渡邊さんは、平成7年4月1日に行政相談委員を委嘱され、20年間の長きに亘り、住民と行政のパイプ役として、相談委員活動に尽力されました。相談は、道路から個人に関することまで多岐にわたり「小さな町なので、行政・民事の分け隔て無く町民の相談に乗り、できるだけ対応できるように努力してきました」と20年間の活動を振り返りました。渡邊さんは3月31日をもって行政相談委員を退任され、4月1日以降は上長尾区の山田俊男さんが引き継ぎます。渡邊さん、ありがとうございました。



左から静岡行政評価事務所野呂所長、渡邊妙子さん、鈴木町長
▲後任の山田俊男さん

5/7

5年越しの想いを込めて

川根高校の茶摘み体験が5年ぶりに復活



町職員から一芯二葉の手ほどきを受け、茶摘みを楽しんだ

県立川根高等学校の1年生47人が、町農林業センターが管理する地名の茶園で茶摘みを楽しみました。茶摘み体験は、「総合的な学習の時間」の体験活動の一環で、以前は学校の茶園で実施していましたが管理が困難なことから町の協力により5年ぶりに復活しました。

嶋副校長は「川根高校ならではの取り組み。急須でお茶を楽しんで欲しい」と生徒に期待を寄せます。1年の加藤大雅さんは「お茶が自慢の町に住んでいるので茶摘みを体験し、知らない人にも広めていきたい」と汗をぬぐいました。



①「川根揉切流」の伝統技法を子どもにも体験してもらった、②お茶餅つき大会には多くの人だかりができた、③茶娘も手揉み保存会会員の手ほどきで手揉みを体験した、④川根茶業協同組合女性部で構成する「サークル・茶の葉」が川根茶を使った5種類の料理を提案し、「おいしい」と大好評。

郷土愛を育む社会科副読本を発行 4/1

水と森が織りなす心和む町「川根本町」を学び、理解する

町教育委員会は郷土への愛着と理解を深めてもらおうと、小学3・4年生向けの社会科副読本を発行しました。副読本はA4版カラー全115ページで、町の自然や人々の暮らし、仕事、町の歴史を築いてきた人たちなどを紹介しています。平成25年度から、教職員らで構成する改訂版編集委員が内容についての協議や取材等を行い、作成しました。大橋教育長は「川根本町を学ぶだけではなく、正しく理解し、町の良さを後の世に伝え、新たな歴史と文化をつくりだせるよう副読本を活用して欲しい」と期待しました。



合併後、初めての発行となった社会科副読本

5/1 もえぎ色の茶畑で茶摘み体験

グループホームを招き、茶摘み体験とお茶の天ぷらを提供



▲企画した藤咲夫妻

この日を待ちわびていたそうで茶摘みを楽しむ皆さん

グループホーム「まつおか」の利用者約20人が梅高区の藤咲洋一さん(65歳)が管理する茶園で茶摘みと摘んだばかりの茶の新芽を天ぷらにして楽しみました。藤咲さんは約15年前に東京から川根本町へ移住、現在は梅高区民からの委託を含め、約2畝の茶園を管理しています。

茶摘み体験は洋一さんの奥さん、小百合さん(52歳)が同グループホームに勤務しているきっかけから企画しました。小百合さんは「認知症を患っている方でも、楽しそうに茶摘みをしている」と体験を楽しむ姿に目を細めました。

4/18 「川根茶」をテーマにのんびりと

川根お茶街道推進協議会が主催する「川根茶の日イベント」が茶茗館で開催され、多くの観光客でにぎわいました。来場者は手揉み体験をはじめ、お茶餅つきや「サークル・茶の葉」が手掛ける川根茶を使った5種類の料理を試食し、お茶づくしのもてなしを楽しみました。

4月21日は「川根茶の日」

▲立春から七十七夜にあたる4月21日は、川根お茶街道推進協議会が制定する「川根茶の日」です。4月18日、専用のヘッドマークを装着したSLが走行しました。



▲オチャッピーも「川根茶の日」を祝いに駆け付けた

